



学校だより

令和2年6月26日
横浜市立豊田小学校
7月号

開く つなげる ともに

豊田小学校ホームページアドレス <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/toyoda/>

「校長先生！待ってください！」

～子どもたち自身による“自分発”の取り組み～

学 校 長

いよいよ7月に入り、給食が始まります。日頃より保護者、地域の皆様方には、豊田小学校の教育活動へのご理解とご協力をいただき、大変にありがとうございます。

さて、ある一人の3年女子児童が、休み時間に私を迫りかけるようにして、綺麗に折り畳まれた小さな手紙を、給食室前で手渡してくれました。「あとで『校長室』で見させてもらうけど、それでもいいかな。」と言葉を返すと、「はい」と言って、笑顔で教室に戻って行きました。「校長室」で、その手紙を開いてみると、「こうちょう先生へ、わたし、とよ田の手あらいの歌にぴったりな言葉を思いつきました！」という文章が飛び込んできました。そして、『とよ田は、コロナにまけない小学校』です。ぜひ、手あらいの歌に入れてみてください。」と、マンガのイラスト付きで書かれていたのです。

また、校長室前の「思いやりボックス」の中に、今度は、別の3年女子児童の次のような手紙が入っていました。

「6月15日のテレビ放送（朝会）で、手紙を出しているお友達がたくさんいたので、わたしも出してみました。手紙を書いていた子が言っていたように、まだコロナがけっしてきえてはいません。こまめに手洗い・うがいをしやくそくをまもってコロナにまけないようにがんばります。」と、同じくマンガのイラスト付きで書いてあったのです。こうした子どもたちの“自分発”の取り組みに、とっても心が嬉しくなりました。

そして、コロナ禍の先行きが見えない閉塞した社会状況だからこそ、子どもたちが自分自身で考え判断して行動していく力を発揮していく機会を、子どもたち自身が求めているようにさえ思います。



《3年女子児童の手紙から》



《図書館で手塚マンガを借りる児童》

かつて、大阪府の豊中市立第三中学校（昭和63（1988）年10月31日）で、マンガの神様と言われた手塚治虫氏が、がんによって侵されながらも生涯最後の講演会で、自分にとって、戦争が一番大きな事件であり、その後、「命」が手塚マンガの生涯のテーマになったことを伝えた上で、次のように語りかけました。

「君たちの一番大きな事件は何だろう。ものすごく大きなショックを受けるような、自分の人生を変えるような事件がもしあれば、それは一生の宝物になります。」と。

今、未聞のコロナ禍の中で生きる子どもたちが、自分の未来に希望を抱いて、前向きになって夢を語っていける時代を、“ともに”つくっていければと思うのです。

頑張れ！豊田っ子！ 負けるな！豊田っ子！